

地域ぐるみで子育て家庭の笑顔と伝統を守る

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した特定非営利活動法人飛騨高山わらべうたの会の取り組みを紹介します。

「親子のふれあいの大切さ」をわらべうたを通して伝える

岐阜県高山市にある特定非営利活動法人飛騨高山わらべうたの会は、飛騨地方に伝わるわらべうたを伝承する活動を通して、子育てに活かしていくとともに、地域のつながりを深めながら「誰一人取り残さない、地域ぐるみの子育て支援環境をつくる」ことを目指している。

同法人を設立した理事長の岩塚久案子氏は、結婚を機に高山市に定住し、子育て親子向けのイベントを開催するなかで、飛騨のわらべうたと出会い、こどもへの愛に満ちた内

容に感銘を受け、平成19年に市民活動団体を立ち上げ、「親子のふれあいの大切さ」をわらべうたを通して伝えていく活動を開始した。平成27年にNPO法人を設立し、「こどもの笑顔が未来をつくる」という理念のもと、子育て家庭に寄り添いながら、さまざまな子育て支援活動に取り組んでいる。

主な活動としては、わらべうたを通して親子がふれあいながら、こどもの情操教育を行う定例活動や出張講座、木育のワークショップを開催するほか、高山市から事業委託を受け、こどもの一時預かりやSNSを活用した相談対応を行う「ファミリーサポート事業」、乳幼児親子を対象にした遊び・交流の場となる高山市つどいの広場「ひだっこランド」を運営している。さらに、育児が困難なひとり親家庭に対し、家庭生活支援員を派遣して生活援助と子育て支援を行う「ひとり親家庭支援事業・要養育家庭支援事業」を実施している。

誰一人取り残さない子育て支援に取り組む

同法人は、令和5年度のWAM助成を活用

WAMから ひと言

「親子のふれあいの大切さ」をわらべうたを通して伝える活動から開始され、現在ではさまざまな子育て支援事業を実施されています。高山市の特徴として子育て家庭が孤立しがちであることに着目し、訪問支援やコミュニティづくりなどに取り組んだ結果、地域の関係機関との連携が深まって地域ぐるみの子育て支援を実現している点などを高く評価しています。さまざまな子育て支援が組みあわせられている、という事業内容の多様性を活かすことで、子育て家庭に寄り添った支援が行き渡っていくことを期待しています。

し、「誰一人取り残さない、地域ぐるみの子育て環境を作る事業」を実施した。

同事業では、ひとり親や孤立・孤独に陥る家庭などが人とつながり、悩みや孤立を解消することを目的に、①訪問支援事業、②親子で楽しむワイワイカフェ事業、③大地のめぐみサマーフェスティバル、④居場所作り事業を行った。

事業を実施した経緯について、岩塚理事長は次のように説明する。

「高山市は、全国の市町村で最も面積が広く、その大きさは東京都に匹敵します。さらに、面積の9割が森林（森林率92・1%）で占められており、集落が点在していることや、子育て親子向けのイベントなどは市の中心部で開催されることが多く、子育て家庭が孤立しがちな状況があります。とくに、コロナ禍では多くの子育て家庭が孤立し、産後うつ、ネグレクト、虐待など深刻な状況に陥る家庭が増え、こどもが満足に食事をとっていないケースもみられました。そのため、地域ぐるみの子育て環境をつくり、子育ての悩みや孤



立を解消することに取り組みました」。

訪問支援で課題を抱える 家庭とつながる

訪問支援事業では、ひとり親や困窮家庭、ネグレクト、ヤングケアラーなど深刻な課題を抱える家庭を訪問し、食事を届けるとともに、悩みや困りごとを傾聴して必要に応じて専門機関につなぐことで、課題を解消することを目指した。

訪問支援事業は月2回実施し、子育て支援員の資格をもつスタッフ5人が、年間延べ615世帯、1904人に対して食事の提供（利用料金：大人2000円、こども1000円）と相談支援を行った。



訪問支援事業では、対面で弁当を届けるとともに、相談に応じることで悩みや孤立の解消を目指した

「ワイワイカフェ事業」は、わらべうたや木のおもちゃを用いた遊び、ワークショップを通して、親子が楽しみながら参加者同士の交流を深めた



利用に至る経路としては、日頃の活動で気になる家庭に声をかけたり、高山市から受託する「ひとり親家庭支援事業・要養育家庭支援事業」を通じて市から依頼が入るケースのほか、訪問支援事業が地元の新聞に取り上げられたことにより、本人からの申し込みや学校、こども家庭支援センターから紹介されるケースもあったという。

提供する食事については、医療給食センターや地域の飲食店等に協力してもらい、毎回100食ほどの弁当を用意した。ひとり親は仕事が終わって、家で手料理をつくるのが負担という家庭もあるため、栄養バラ

ンスのとれた手の込んだ食事を提供することにこだわったという。

訪問支援事業の支援について、スタッフの小野麻美氏は次のように説明する。

「訪問支援事業では、対面で食事を届けることを大事にしていますが、訪問すること生活状況がみえることがあります。とくに、ひとり親はこどもが不登校になっている家庭も少なからずあり、仕事と子育てを1人で抱え込み、追い込まれていることが少なくありません。訪問支援のスタッフは、子育て経験があり、こどもも同じ年齢層であることも多いため、共感できる話題や経験談を話しなが

事業概要

助成額

375万円



WAM 助成
e-ライブラリー

令和5年度事業

特定非営利活動法人 飛騨高山わらべうたの会

誰一人取り残さない、地域ぐるみの子育て環境を作る事業

【事業概要】

ひとり親や生活困窮、孤立・孤独に陥る家庭などに対し、人とのつながりをつくり、生きる力と安心感を与えることを目的に、訪問支援事業や居場所づくりを実施する事業



【実施内容】

◆訪問支援事業

ひとり親や困窮家庭等を訪問し、食事を届けるとともに、相談に応じることで不安や悩みの解消を図る

◆親子で楽しむワイワイカフェ事業
孤立している子育て家庭を地域拠点に招き、親子で楽しめる活動を通して参加者同士のつながりをつくる



◆大地のめぐみサマーフェスティバル
JAとの協働で食育をテーマにしたイベントを開催し、子育て家庭や地域の支援団体とのつながりを深める

◆居場所作り事業

ひとり親や困窮家庭に対し、生活の不安や子育ての悩みを共有したり、情報交換をする居場所を提供し、悩みや孤立の解消を図る

【成果】

◆訪問支援事業は、年間延べ615世帯を訪問し、1904食を提供した。利用者と信頼関係を築きながら悩みを傾聴するとともに、必要に応じて専門機関につなげた

◆年間20回開催した「親子で楽しむワイワイカフェ事業」は、延べ391人の親子が参加した。開催場所は同法人の支援拠点のほか、各地区の公民館などで開催することにより、それぞれの地域でコミュニティを形成することができた

◆JAひだと共催した食育イベント「大地のめぐみサマーフェスティバル」には、延べ898人の親子が参加した。地域の子育て支援団体や専門職、企業などに参加を呼びかけることで、参加した子育て家庭に多様な支援団体があることを知ってもらう機会としたほか、支援団体同士の連携が進むことにつながった

◆居場所作り事業は、ひとり親や困窮家庭を対象にした「森カフェ」を毎月開催し、延べ75組（計205人）の親子が参加した。居場所では、さまざまな交流活動や食事の提供を通して参加者同士、スタッフとのつながりを深め、悩みや孤立の解消を図った





双子の親子を対象にした「ツインズカフェ」を開催し、育児に関する情報提供と多胎児親子のコミュニティづくりを行った



食育をテーマにしたイベント「大地のめぐみサマーフェスティバル」には、898人の親子が参加した

市内各地に地域拠点をつくり、コミュニティを形成

「親子で楽しむワイワイカフェ事業」は、孤立や孤独に陥る子育て家庭を地域拠点に招き、親子で楽しみながら参加者同士が交流する機会をつくり、孤立の解消を図った。

「開催場所は、当法人の活動拠点のほか、各まちづくり協議会と連携し、市内各地の公民館などの公共施設で開催することにより、広い高山市で複数の地域拠点をつくり、それ

ら信頼関係を築くことで、少しずつ内情を話していただけるようになります。悩みに応じて子育て支援に関する情報を提供したり、当法人の活動を紹介することで継続的につながることを目指しています」。

一方、虐待やネグレクトの疑いがある場合には、高山市の子育て支援課と情報共有し、こども家庭支援センター等につなぐ対応を行ったという。

その地域で互いに支えあえるコミュニティをつくることも目的としています」（岩塚理事長）。

年間20回開催した「親子で楽しむワイワイカフェ事業」には、延べ391人の親子が参加し、HPやSNSでの広報活動を強化することで、中山間地域から参加する親子も多かつたという。

活動では、わらべうたや木のおもちゃを用いた遊び、帰国子女のスタッフによる英会話、産後ケア指導士による体幹・骨盤矯正など、スタッフのスキルを活かしたさまざまなプログラムを実施した。そのほかにも、双子の親子を対象にした「ツインズカフェ」を開催し、多胎児ピアサポーターによる育児に関する情報提供や多胎児親子のコミュニティづくりを行った。

「多胎児の育児は精神的・身体的な負担が大きく、外出も困難なため、孤立してしまう傾向がありますが、参加をきっかけに友人ができ、先輩の多胎児の母親からアドバイスを受けたら、ランチや当法人が運営する『つどいの広場』と一緒に出かけするなど、アクティビに変化する様子がみられました」（岩塚理事長）。

さらに、JAひだとの共催で食育をテーマにした「大地のめぐみサマーフェスティバル」を開催し、898人の親子が参加した。開催にあたっては、子育

て支援に想いのある団体に参加を呼びかけ、日頃支援をしている家庭に声かけをしてもらうことにより、多くの参加につながることもできた。

イベントでは、わらべうたやダンス、楽器演奏を行うステージをはじめ、各団体に縁日や木育のワークショップ、創作活動、リサイクルコーナーなどのブースを出展してもらい、親子が楽しめる企画を実施した。

「食育に関するプログラムとしては、夏休みはこどもが1人で過ごすことが多く、食事がおそろそかになりがちなので、地元産の旬の野菜を試食したり、料理を紹介することで野菜を食べることを啓発しました。また、多くの支援団体に協力していただくことで、参加者に地域に多様な支援団体があることを知ってもらう機会となり、支援団体間の連携も進み、地域ぐるみの子育て支援体制をつくるきっかけとなりました」（岩塚理事長）。

交流や情報交換の場を提供

居場所作り事業では、ひとり親や困窮家庭を対象に、生活の不安や子育ての悩みを共有し、情報交換をする場を提供した。居場所は「森カフェ」として毎月開催し、延べ75組（計205人）の親子が参加しており、毎回さまざまな交流活動や食事会などを通して参加者同士やスタッフとのつながりをつくり、悩みを解決することを目指した。

交流活動では、クリスマス会やバーベキュー、創作活動のワークショップ、親子ヨガの



助成事業の成果としては、課題を抱える子育て家庭への支援を行うとともに、地域の関係機関との連携が強化され、地域ぐるみの子

モデルケースとして活動が広がる

ほか、リサイクル用品の受け渡しや制服譲渡会などを実施し、継続的に参加してもらうことで子育て家庭同士のつながりができ、貴重な情報交換の場となったという。

さらに、令和6年6月には著名なマジシャンによるマジックショーを開催し、ひとり親や困窮家庭に加え、児童養護施設に通う小学生を招待して252人が参加した。

「高山市は娯楽施設が少なく、困窮家庭の子どもはそのような体験をする機会が少ないため、親子が一緒に楽しむ機会を提供することで、前向きに頑張るきっかけになればと考えました」（岩塚理事長）。



ひとり親や困窮家庭を対象にした居場所「森カフェ」は、参加者同士やスタッフとのつながりをつくり、子育ての悩みを解消する交流の場となっている



左からスタッフ小野麻美氏、水野美佐子氏

運営資金とマンパワーの確保が課題

特定非営利活動法人飛騨高山わらべうたの会

理事長 岩塚 久案子氏



今後、事業を安定的に継続していくためには、運営資金とマンパワーの確保が課題となっています。資金面については、活動への共感者を増やしなが、個人・企業から寄付を集める体制をつくらなければならないと考えています。

また、人材については、現在は37人のスタッフが支援に携わっていますが、子育て中の母親が9割近くを占めています。当法人は「できるときに、できる人が、できることをする」をモットーにしており、急な休みもとれますし、全員働き方が違います。このような働き方を維持するためにも、さらに地域のなかで支援の担い手を発掘していきたいと思っています。

◆団体概要

〒506-0058 岐阜県高山市山田町 294 番 1-2

TEL : 0577-57-8577

FAX : 0577-57-8577

URL : <https://hidawarabe.org>

設立 : 平成 27 年 5 月

理事長 : 岩塚 久案子

伝える機会が増えましたし、市の広報誌に事業案内を掲載していただけるようになりました。また、さまざまな子育て支援事業を展開したことで、子育て家庭が必要とする支援を組み合わせて利用できるようになっていま

育て環境づくりが進んだことがあげられる。

「誰一人取り残さない」という思いで子育て支援に取り組むなかで、行政や社協などから支援の依頼が入るようになり、当法人に対して信頼していただけるようになったことは大きな成果だと感じています。私自身は高山市の要保護児童対策地域協議会の委員に就任したことで、現場の実態を

行政や地域の支援団体と連携し、「誰一人取り残さない、地域ぐるみの子育て環境づくり」を進める同法人の今後の取り組みの広がりが期待される。

事業の反響としては、多様な子育て支援を組み合わせたモデルケースとして注目され、支援関係者からノウハウに関する問い合わせや講演依頼が増えている。支援ノウハウの提供に力を入れることにより、各地域で同様の事業が開始されているという。



社会福祉振興助成事業に関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター

NPO 支援課（助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等）

TEL : 03-3438-4756 FAX : 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課（助成事業の広報、事業評価等）

TEL : 03-3438-9942 FAX : 03-3438-0218 (共通)

NPO 等の民間福祉活動への応援よろしくお願いします！

当機構では寄付金を募集しています



お問合せ先 : 03-3438-0211 (総務部総務課)

